

《《《《《《《《《《《《

統計資料の活用について

》》》》》》》》》》》》

水戸市企画課 仲田勝一

昨今の経済・社会情勢のめまぐるしい変化に伴ない、統計調査の重要性が叫ばれ、果す役割は大きなものがあり、統計担当者としては強い責任感を覚えるところである。

統計調査にたずさわるものとして統計資料がいかにも有効に利用・活用されるかによって、仕事の励みにもなり喜びも倍加されることはいうまでもない。大きな労力と時間とお金をかけて調査を行い、立派な調査結果が出て、これが利用されなければ調査の目的も薄れ、統計担当者としてもむなしなものになってしまう。

統計資料を有効に利用、活用されるには、いかに正確かつ迅速に、そして現実に即した資料として整備するかにかかってくることであり、統計マンとして頭を痛めるところである。

しかし現実はどうだろうか？年々多くなる調査、多種多岐にわたる調査内容と指定統計調査に追われ、じっくり結果を検討する余裕がないのが現実ではないだろうか。

本来は、調査結果を検討・分析し、利用する立場にたって資料を整備しなければ利用の範囲も限定されるし、利用したくても利用できない 当誌「4月号」にも記載されているが、各統計調査機関の横の連絡を十分とりあって統計調査の統合整備を考慮してほしいものである。

統計資料を整備するにあたり、特に次のような問題がある。一つは、結果の公表の時期の問題である。急激に変化する社会情勢を考えると、調査の結果は少しでも早く知りたい知らせたいというのが統計担当者の考えであり、利用者の希望であると思う。調査によっては2年、3年あるいは次回の調査時期の頃ようやく公表されることもあり現実にそぐわない。遅くとも1年ぐらいの間に公表を望みたい。

二つとしては、公表される地域区分が大きく、内容も大きな分類で、利用したい細かい資料がとれないことである。これにはいろいろな問題があると思う。細かく分割・分類をした場合、秘密保持の関係から秘とく数字

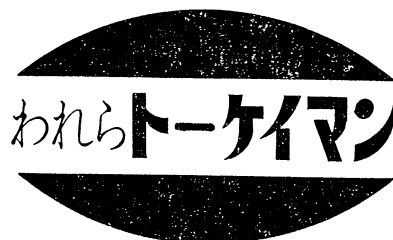
(x)のみ多くなり、意味がなくなってしまう恐れもあると思うが、市町村の状況を考慮に入れ検討を望みたい。地域区分については50年国調からとり入れたメッシュ統計、あるいは基本調査区制度の最大限の活用を期待したい。

「統計なくして行政なし」ともいわれるが、現在当市では総合計画の改定作業を進めているところで、その基礎となるのは統計の資料である。人口、年齢構成・産業構成 所得等、過去の資料をもとに計画をたてるわけですが、どれ一つをとっても欠くことのできないものである。この基礎資料があいまいでは将来を予測する場合、長い間には大きな差異を生じることになり、統計担当者としては利用される喜びと同時に責任を重く感じるところである。

調査結果の利用は年々多くなる傾向にあるが、まだまだ活用される範囲が狭い。これはいままでに述べた問題のほかに調査結果の公表（PR）の方法にも問題がある。資料があってもPRをしなければ何の資料があるか担当者以外の人にはわからない。

調査される市としても、その結果について知りたいのは当然であり、また結果を公表することにより調査に対する理解も深まり、次の調査もやりやすくなる 統計調査に対するPRも大切であるが、また結果のPRも重要なことはいまでもなく十分検討の必要がある。

統計調査は“縁の下の力持ち”だけに終ることなく、現代の花形として希望を持ち明るい気持ちで仕事にのぞみたいものである。



統計グラフの作図法

統計グラフの作り方(4)

<棒グラフ>

数値間の比較、差、順位が視覚的に理解しやすい。また、面積グラフ、体積グラフに比べて作図が容易である。

棒グラフで表現可能な統計内容は、単純な比較のほかにも種類が多い。基本的な作図法は、まず基線（零線）を設定し、その直線に一端で直角に交わる直線に目盛りをとる。目盛りには基線を零とした算術目盛りをつける。目盛りの幅はすべて等しく、最高の目盛りには数値の最大数を目やすにして、なるべく無駄なく、切れ目のよい数字を選ぶのがよい。（図1）

各目盛りから基線に対して平行に延長する目盛り線を適当な間隔で引く場合がある。視覚上目盛り線が複雑な時には省略した方がよい。

グラフを見やすくするためには、棒には適当な幅をつけるとよい。また棒にはほどよい色彩か模様による面づけをすると見やすくなる。

棒間の間隔は、密着させるか、または開けるなら棒の幅の $\frac{1}{2}$ ～ $\frac{2}{3}$ 程度がよいとされているが視覚上差しつかえがなければこの限りではない。

棒グラフは、目盛り自体の工夫や、棒グラフの組み合わせ、重ね合せ、また棒グラフと線グラフ（後述）との組み合わせなどによって利用制度が高い。

(1) 目盛りの多様化

- ・上下対称の目盛り……年次または月の黒字、赤字の関係・地域別人口や費目別予算等の対前年増減率など、

- ・左右対称の目盛り……垂直の零線を中心に、左右対称の目盛りを用いる。平均寿命の男女別比較、国別の輸出高と輸入高など。（図2）

- ・単位の異なる上下または左右の対称目盛り……各国の国民所得と国民一人当たりの所得、年次別交通事故件数と死傷者数など。

- ・指数目盛り……基準時を100とした現在の各種生産指数、東京を100とした地方都市の物価指数など。たて、横のいずれに目盛りをとってもよいが、基準時の高さ（100にとる場合が多い）を示す基準線を、線の太さ

か色彩で強調すると効果的である。グラフ中の適当な場所に（昭和45=100）のように基準時とその値を記入しなければならない。（図3）

図1 木造家屋1㎡当たり価格（昭和47年）

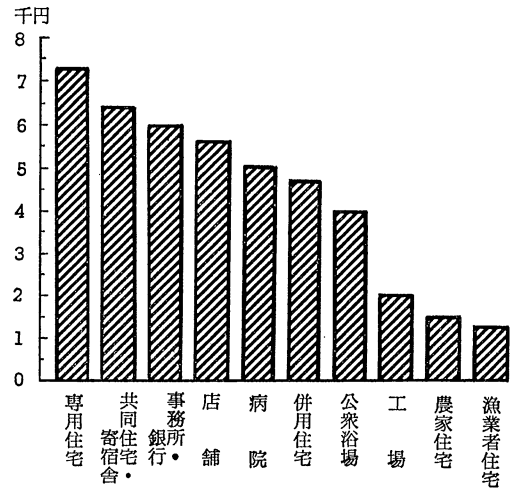


図2 性別・年齢別就業者数（15歳以上）（昭和45年10月1日現在）

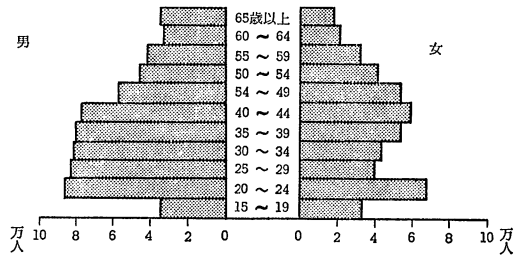
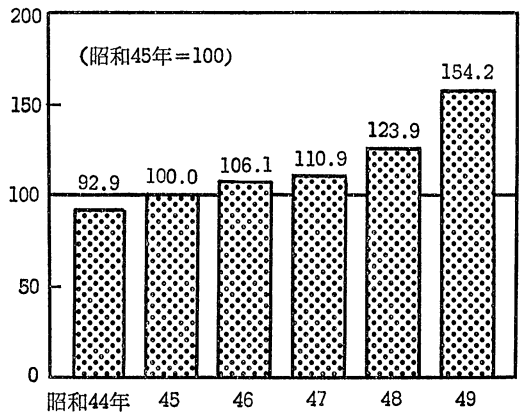


図3 消費者物価指数の動き（全国）



行政資料名	内容年	規格		発行所(者)
		判	頁	
茨城県関係				
昭和49年 茨城県の人口と世帯	49	B5	71	統計課
〃 茨城の商業	〃	〃	161	〃
〃 茨城県鉱工業生産指数	〃	〃	37	〃
〃 〃 農林水産生産指数	〃	〃	71	〃
〃 水戸市消費者物価指数の概況	〃	〃	19	〃
第7回 都道府県の展望	48	〃	98	〃
茨城の原子力	50	〃	211	大気保全課
昭和49年 市町村財政実態資料	49	〃	604	地方課
〃 茨城県の災害	〃	〃	72	消防防災課
〃 社会福祉統計便覧	〃	〃	51	県民福祉課
〃 県民生活安定対策の概要	〃	〃	243	消費生活課
〃 消費者行政事業実績	〃	〃	46	〃
昭和50年度 消費者行政の概要	50	〃	68	〃
交通安全対策資料 その6	49	〃	97	交通安全課
昭和48年度 県民栄養のすがた	48	〃	127	環境衛生課
昭和49年度 大規模炭鉱所在市町村実態調査	49	〃	97	商工企画課
茨城県中小企業経営指標	〃	〃	112	経営指導課
昭和49年 県内労働情勢	〃	〃	83	労政課
茨城の特産農作物	〃	〃	91	農産園芸課
昭和50年度 林務行政の概要	50	〃	72	林政課
公害防止計画基本方針策定調査報告書	49	〃	130	都市計画課
昭和49年度 長欠対策推進地区の歩みと成果	〃	〃	68	教育庁指導課
県内市町村関係				
勝田市 総合計画	50~52	B5	81	勝田市役所
昭和49年度 統計かつた	49	〃	50	〃
たかはぎ 1974	〃	A4	48	高萩市役所
結城市 総合計画書	〃	B5	90	結城市役所
結城の統計 1974	〃	〃	42	〃
町勢要覧 いわせ	〃	〃	59	岩瀬町役場

統計ニュース

— 7月の主な行事 —

- 2~3日 農業センサス事後調査打合せ会
- 21~8月4日 国勢調査市町村事務打合せ会(第2次)
- 〃 (八郷町・茨城町)
- 25日 毎月勤労統計特別調査打合せ会
- 15~17日 消費実態調査市町村担当者事務打合せ会
- 〃 (ときわ荘)
- 17~18日 地方統計職員専門研修(大洗曙荘)